

# フードバンク横浜 第7期(2022年度)事業報告書(2022年4月1日~2023年3月31日)

2023年5月

特定非営利活動法人 フードバンク横浜

## 1. 総括：

新型コロナ感染拡大が継続する中、横浜市に於ける困窮家庭、緊急困窮者は増え続けており、当団体は現行のひとり親世帯支援・困窮者支援及びホームレス(街とも)への食料支援活動を通じて横浜市に於ける食のセーフティネットとしての役割を通期通して確実に果たすことが出来ました。

SDGs運動の社会的な深化で新たな企業群が自社内でフードドライブを実施し、それらを当団体に寄付してくれるケースが毎月のように出現し、当団体はそれらにタイムリーに的確に対応して食料在庫量を増大させてきました。困窮者に支援の手を差し伸べたい新しい企業・団体・学校・個人などと支援を必要とする困窮者たちを食品を介して繋ぐという本来の使命を、本年度も引き続き的確に遂行出来たのが大きな成果であります。食料在庫量は前期比約15%増えています。

上記のように新たに当団体に寄付を寄せてくれる企業・団体は当期中で10社以上となり、マルエツは、店内フードドライブ品回収対象店が従来の横浜市内3店舗より当期中に12店舗まで拡大となりました。また、毎月ホテル内でフードドライブを当団体との共催で実施しているホテルエディット横濱では宿泊予定者に家庭内の不要食品の持ち込みを呼びかける「SDGs宿泊パック」を導入したりと各企業の対応は極めて積極的であります。宅配配給食大手のオイシックス・ラ・大地との契約も当団体の在庫増に大きく貢献しています。

プロバスケットB3リーグの横浜エクセレンスとの契約も、横浜武道館の同チームの試合時に共催でフードドライブを実施するので大きな宣伝効果を生んでおります。

エフエムシー&ミッション社よりは大量の高級化粧品を寄付を受けましたが、ひとり親世帯のお母さんがたには大変好評で、これにより支援会場の雰囲気は更に明るく華やかになるという効果が生まれました。

横浜市各区でのひとり親支援会の会場には毎月提携企業の関係者、学生、小学生が参観に来ており、当団体は毎回丁寧にこれらを受け入れております。SDGsの啓蒙活動というものが当団体の新しい使命になっていて、各支援会場での活動内容プレゼンおよび学校に出向いての講演会実施などで積極的に対応しております。これら啓蒙活動を実施出来るようなボランティア人材育成にも力を注いでおります。

従来より当団体から食品支給を行ってきた他の小規模支援団体への支援はその回数も量も多くなり、他支援団体への食料支援(割譲)も現在当団体の新たな使命になってきております。

財政面では厳しい状況が続いております。当期は前期(2021年度)に比べ経常費用は5%減となったものの、経常収益が19%減になったために最終損益が前期の2倍のマイナス300万円超となり、次期繰越金が赤字に陥り、この点では危機的状況と言えます。安定的な資金源を確保するなど財政問題の抜本的な対策が急務となっております。

通期を通じ、当団体の活動内容がマスコミで報道される機会が多くなり、神奈川県政策局知事室(かなちゃんTV)での放映、神奈川新聞の記事で当団体を取り上げられ、当団体の知名度は更に上がりました。横浜市(資源循環局、地域振興課など)など各行政機関との連携もうまく推移していて、当団体の社会的信用度はより強固になっていると言えます。

## 2. 各事業の具体的成果：

### (1) 定期活動成果

- ①寄付者の増大と多様化：当団体の社会的認知度が上がり、各企業・団体・個人からの寄付が増えています。

寄付品目も食品のみではなく、日用雑貨品、野菜、冷凍食品、衣類など多種多彩でした。

#### ご寄付頂いた主な企業・団体様

日本ケンタッキー・フライド・チキン、日本ピザハット、エバラ食品工業、KEYA 港北店、そごう西武東戸塚S.C.、戸塚モティ、ファンケル、無印良品、有隣堂、横浜FC、テラビッツ、横浜冷凍、マクニカ、シーバイエス、味の素冷凍食品、パタゴニア、横浜ステーションビル、ENEOS システムズ、中華街・招福門、中華街・山東、ローム、ホテルエディット横濱、ハイセンス・ジャパン、マルエツ、横浜市資源循環局、横浜市神奈川区地域振興課、フードバンクかながわ など

#### 当期中に新たにご寄付頂いた主な企業・団体様

オイシックス・ラ・大地、横浜エクセレンス、西松建設、神奈川東ロータリークラブ、エフエムジー&ミッション、TVS REGZA、中華街・ちーさん家のマラーカオ、横浜山手ライオンズクラブ、CIAL 横浜、相鉄ホールディングス など

#### ご寄付頂いた個人の方々

個人情報保護のためここに明示できませんが、のべ2百人余りでした。

- ②毎月定期開催のひとり親支援会：会場は4会場（中区、戸塚区、神奈川区、港南区）です。多くのひとり親世帯及び生活困窮者にお米、アルファ米、パン、缶詰、レトルト品、乾麺、お菓子、冷凍食品、冷凍菓子、野菜などの食料品および日用品、衣料品、おもちゃなどの配給支援を各区で毎月1回定期開催しました。
- ③横浜市の地元飲食店と繋がり強化：横浜中華街からは「招福門」様より冷凍中華材を寄付頂きましたが、2018年3月から「山東」様より街とも（ホームレス者）支援用に温かい中華弁当とスープの提供を毎月受けており、街ともよりは好評を博しております。中華街よりは当期中に新たに「ちーさん家のカーラーカオ店が寄付者に加わり、各ひとり親支援会の開催に合わせて同店の出来立てのマラーカオ（甘い中華風蒸しパン）が当団体に提供されております。
- ④奨学米：奨学米制度を継続し、ひとり親世帯で就学生がいる家庭に毎月4<sup>キ</sup>のお米を毎月ひとり親支援会場にて定期提供しております。
- ⑤子どもみらい塾：貧困の連鎖を断つことと教育格差是正に対応するため、毎週2回（火・金曜日）の教室開催を東戸塚地区センターにて継続中であります。
- ⑥当団体主催のフードドライブ：そごう西武東戸塚S.C.、戸塚モティ、ホテルエディット横濱の3カ所毎月継続して実施中であります。
- ⑦街とも（ホームレス者）支援：関内駅北口地下通路にてホームレス者（街とも）へ毎月月末に食品配給を継続実施しております。前述の中華街「山東」様からのお弁当の提供と共に、企業・団体・個人などから頂いた諸食品・日用品・衣類・毛布及び寝袋を支給しました。対象の街とも的人数は増加の一途であり、通常50人～70人が100人を超えることもあり、増え続ける対象者に対する新たな配給方法・内容を思案中であります。

## ⑧マルエツの店内フードドライブ：

当団体とマルエツ本社との合意に基づき、2021年11月からスーパー マルエツの横浜市内3店舗（天王町店、井土ヶ谷店、最戸店）にて店内フードドライブが実施されてきましたが、当期7月より横浜市内の9店舗が加わりました。よって、現在は毎月マルエツ横浜市内12店舗より当団体はそれら店内フードドライブ品を回収しております。毎月の回収作業には手間が掛かりますが、その回収量は毎月増加しており、マルエツグループよりのこれら回収品は当団体受ける寄付食品の中核になっております。

## (2) 非定期活動成果

社会的なSDGs運動の拡大に呼应すべく、各企業・団体内で独自にフードドライブを実施するようになっており、当団体はそれら企業・団体にフードドライブ用品を貸し出して、フードドライブの実施方法を指導しました。これらフードドライブで集められた食品類は当団体が一括して受け取っております。

対象となった企業・団体・学校は次の通りです。

日本ケンタッキー・フライド・チキン(株) 日本ピザハット(株)、エバラ食品工業(株)

以上3社はみなとみらい地区の同一ビルに事業所があり、日本ケンタッキー社の旗振りで

3~4カ月に一度ビル内全体でフードドライブを実施しており、その全量を当団体は寄付として受け取っております。

ローム(株)：不定期ですが数か月ごとにビル内全体でフードドライブを実施。実施時には当団体として旗、テーブルクロスなどのフードドライブ用品を事前に貸し出し、集まった食品類は全量を当団体が引き取っております。

横浜エクセレンス：同社はプロバスケットのB3チームを運営しており、横浜武道館の同チームの試合に合わせて館内にて当団体との共催にてフードドライブを実施。この際、同チームのオフィシャルスポンサーである西松建設より大量の企業内フードドライブ品が持ち込まれます。開催実績は当期中でまだ2回のみですが、試合に合わせての開催なので来場者は毎回2千人にもものぼり、PR効果は極めて大きく、当団体としても開催回数を増やすなど注力している最中であります。

神奈川東ロータリークラブ：本ロータリークラブの新規活動としてフードドライブを実施したいとのことで当団体に照会がありました。2022年10月9日の神奈川区民まつりにて共催にてフードドライブを実施しました。同クラブの会員企業はみな地元の中堅・小規模企業なので、今後はその各会員企業と当団体は繋がりをもち個別の支援が得られるものとして、当団体は同クラブとの繋がりを強化してゆく所存であります。

## (3) 新事業である「フードステーション横浜」

株式会社 日立製作所本社が開発したマッチングアプリは2022年3月に当団体に引き渡し完了となりました。本アプリの保守業務を日立子会社である日立ハイシステム21と当団体は当期中に契約済みであります。

現在、運用に向けて対象となる協力店舗を選定中であり、横浜中華街のマーラーカオ店とは既に契約を完了させました。実際の運用開始までにはさらに一定の時間を要しますが、日立側とは定期的な打ち合わせを持って、当団体の作業進捗状況を適宜報告しております。

2023年度中の本格運用開始を目指して現在鋭意作業中であります。

### 3. 各事業内容紹介と年間支援及び参加者実績数：

#### ひとり親支援事業

- ・内 容 ひとり親支援を目的に、毎月「ひとり親支援会」を開催し、会場に來られるひとり親世帯へお米、アルファ米、缶詰、レトルト品、飲料、乾麺、お菓子などの食料品および衣類、日用雑貨品、衛生用品、化粧品などを提供しております。
  - ・日時・場所 中区「なかふく」 毎月第一土曜日 11:30-14:30
  - 戸塚区「東戸塚地区センター内」 毎月第二日曜日 “
  - 神奈川区「神奈川地区センター内」 毎月第三土曜日 “
  - 港南区「港南区社会福祉協議会内」 毎月第四土曜日 “
- ・ボランティア のべ1千人余り参加
- ・支援世帯数 年間約1920世帯

#### 生活困窮者支援事業

- ・内 容 失業者や高齢者支援を目的に、ひとり親支援会場にご案内し、お米、諸食料品、日用雑貨品などを提供しております。
- ・支援世帯数 年間240世帯

#### ホームレス支援事業

- ・内 容 街とも（ホームレス者）支援として、諸食品、日用品、衣類、毛布、寝袋および中華街の「山東」様からの温かいお弁当・スープを毎月1回提供しております。
- ・日時・場所 毎月最終金曜日 JR 関内北口地下通路 時間は夜6時半より8時半まで
- ・ボランティア 延べ約150人参加
- ・支援者数 年間約1500人

#### 他支援団体への食料支援（下記活動の主催はグラマセヴァジャパン）

- ・内 容 街とも（ホームレス者）支援として、お米・食料品・お菓子・非常食・お水などを当団体より主催者側に毎月提供しております。
- ・日時・場所 毎週日曜日 東京新宿区代々木公園 11:30-12:30
- ・支援者数 約3840人

#### 他支援団体への食料支援（下記活動の主催はナーラーヤナセヴァグループ）

- ・内 容 街とも（ホームレス者）支援として、食料品・お菓子・非常食・お水などを当団体より主催者側に毎月提供しております。
- ・日時・場所 毎週土曜日 関内北口地下通路・横浜スタジアム・馬車道 19:00-21:00
- ・支援者数 年間約600人

#### お米支援事業

- ・奨学米 ひとり親世帯のこども（小四以上と中高生）支援を目的に、4kgのお米を毎月奨学金の代わりに提供。提供期間は、年度単位としてあります。
- ・安心米 失業者・高齢者など生活困窮の方々に生活が安定するまで提供します。
- ・福米 ひとり親家庭のこども（小学三年生以下）のご家庭に2kgのお米を毎月提供。
- ・ボランティア 毎月最終水曜日 精米作業に参加ボランティア人数延べ 約80人

### フードドライブ そごう西武東戸塚SC.

- ・日時・場所 7階ファストブリッジ 毎月第一日曜日 11:00-16:00
- ・来場者 約1千人
- ・寄付品 約1万点
- ・ボランティア 年間延べ120人

### フードドライブ 戸塚モティ

- ・日時・場所 2階 毎月第二土曜日 11:00-16:00
- ・来場者 約6百人
- ・寄付品 7千点
- ・ボランティア 年間延べ70人

### フードドライブ ホテル EDIT 横濱

- ・日時・場所 1階ロビー 毎月第三土曜日 11:00-16:00
- ・来場者 約120人
- ・寄付品 約4千点
- ・ボランティア 年間延べ36人

### マルエツ横浜市内12店舗内フードドライブ常設

- ・店舗名 天王町店・井土ヶ谷店・横浜最戸店・大倉山店・磯子店・戸塚舞岡店・戸塚大坂下店・名瀬店・長津田駅前店・中山店・四季の森ファレオ店・中川駅前店
- ・受領ボランティア 24名

### 子どもみらい塾

- ・内容 貧困の連鎖を断つことと教育格差是正に対応するために、毎週2回東戸塚地区センター内の教室にて無料塾として実施中。  
文部省が認めた教科書に準拠しているe-Learningシステム「天神」を用いた自己学習の形態を採っております。
- ・生徒数 約120名
- ・ボランティア 36人

### フードステーション事業

- ・内容 食品ロスの削減、社会貢献、地球に優しい「もったいないをありがとうへ」を理念として、株式会社日立製作所が作成したプラットフォームアプリ「Food Station Yokohama」を使い展開中です。
- ・提供店 開拓中であります。(2023年3月第一号店舗契約を締結済み)